

専修大学 Si データサイエンス
教育プログラム(基礎リテラシーレベル)

自己点検・評価報告書

2025(令和7)年度

専修大学 数理・データサイエンス・AI 教育

自己点検・評価実施委員会



1 自己点検・評価の実施体制

専修大学では、令和4年度以降入学者を対象として、ビッグデータやAIによって駆動される現代の情報化社会の変化について理解し、基礎的な情報処理・データ分析能力・情報倫理を身につけることを目的に、Si データサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）（以下、「Si データサイエンス教育プログラム」という。）を新設した。同プログラムは令和7年度も継続して以下の実施体制の下、自己点検・評価活動を実施した。

役割	委員会等
プログラムの運営責任者	専修大学数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会
プログラムの改善・進化	専修大学数理・データサイエンス・AI 教育運営委員会
プログラムの自己点検・評価	専修大学 自己点検・評価委員会 数理・データサイエンス・AI 教育自己点検・評価実施委員会

2 自己点検・評価の方法と点検・評価項目

自己点検・評価に際しては、「Si データサイエンス教育プログラム」の質向上の観点から、評価の視点を【学内からの視点】と【学外からの視点】に大別し、さらに、それぞれに下位項目を設定した。

【学内からの視点】

- (1) Si データサイエンス教育プログラムの学修成果について
- (2) Si データサイエンス教育プログラムに関わる授業科目の教育内容・方法の把握と改善支援について
- (3) Si データサイエンス教育プログラムの履修状況の把握と改善について

【学外からの視点】

- (1) 産業界からの視点を含めた「Si データサイエンス教育プログラム」の教育内容・方法について

3 自己点検・評価結果

【学内からの視点】

- (1) Si データサイエンス教育プログラムの学修成果について

- 1) 学生アンケートの調査概要（添付資料①参照）

専修大学の「Si データサイエンス教育プログラム」は、添付資料①P3 のとおり、各学部・学科によって異なる開講科目¹を設置していることに特色がある。

¹ この「開講科目」の定義は、各学部が Si データサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）として開講する授業科目のことを指す。

この度、本学では本プログラムにおける教育の質向上を図ることを目的に、令和7年7月14日（月）から8月2日（土）までの間、大規模な学生アンケート調査を実施した。アンケート対象者は、本プログラムを受講する令和7年度「Si データサイエンス教育プログラム」（基礎リテラシーレベル）履修者とした。調査方法は、本学で導入しているLMS（in Campus）のアンケート機能で実施した。設問数は、全13問で構成されており、うち単一選択形式（ラジオボタン）11問、記述式2問で構成した。

回答結果については、添付資料①P4のとおり、対象者3,424名（令和6年度:3,885名）のうち、880名（令和6年度:769名）が回答した。なお、回答率は25.7%（令和6年度:19.8%）であった。

2) Si データサイエンス教育プログラムの学修成果（添付資料①参照）

本学では、学生アンケートを通じて、Si データサイエンス教育プログラムの学修成果を測定した。評価尺度は、5段階評価（「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「やや当てはまらない」「当てはまらない」とした。設問項目としては、①【意欲】②【理解度】③【成長実感】④【推奨度】⑤【希望】を設定した。

《全学部集計の結果 ～単一選択式～》

単一選択式のアンケート結果について、学生の【意欲】を確認するために設定した、**設問1**「Si データサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。」については、肯定回答率（「当てはまる」「やや当てはまる」）の割合が78.6%となり、学生がプログラムに意欲的に参加することができた。

続いて、学生の【理解度】を確認するために設定した、**設問2**「データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。」、**設問3**「『数理・データサイエンス・AI』が、今後の社会における『読み・書き・そろばん』に相当することを理解できた。」、**設問4**「今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。」、**設問5**「AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。」、**設問7**「Si データサイエンス教育プログラムを受講することで、個人情報保護などのデータを取り巻く環境について関心を持つようになった。」、**設問8**「データ・AI を利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。」については、**設問3**および**設問7**を除いて、肯定回答率が80%を超える結果となった。このことから、本学学生の数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーレベルの理解度については、学修成果に照らしても所期の目的を十分達成したといえる。

設問7について、設問の内容の見直しが奏功し、令和6年度の肯定回答率54.2%から76.6%（22.4ポイント増）と大きく増加した。その一方で、**設問3**は、令和6年度の肯定回答率62.4%から69.4%（7ポイント増）と増加したものの、全体と比較すると低い結

果となった。引き続き、理解度向上のため課題解決の検討が必要だと思われる。

続いて、学生の【成長実感】を確認するために設定した設問6「データリテラシーを向上できた。」、設問9「Si データサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。」については、令和6年度と同様、とりわけ肯定回答率が高い結果(設問6:85.3%、設問9:88.9%)となった。このことから、本学学生が本プログラムを通じて、自分自身の成長を実感することができた証左といえる。

続いて、学生の【推奨度】を確認するために設定した、設問10「このSi データサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。」については、肯定回答率が70.3%となり、学生の成長実感とも相まって、本プログラムを高く評価していることが確認できた。

最後に、学生の【希望】を確認するために設定した、設問11「今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に着け、応用基礎レベルの認定を目指したい。」については、肯定回答率が70.5%となり、学生がより実践的な教育を求めていることが確認できた。

《全学部集計の結果 ～記述式～》

記述式のアンケート結果について、設問12では、本プログラムにおける学生の評価を確認することを企図して、「Si データサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。」を設定した。本設問は、任意項目であったものの、458名の有効回答数を得ることができた。

学生からフィードバックされた回答については、テキストマイニングを活用してキーワードを抽出することとした。その結果、令和6年度同様に「学べる」「できる」「役立つ」といった学生の成長実感のキーワードが明確に抽出されたことが、本プログラムの大きな成果であるといえる。

さらに、共起ネットワークを分析した結果、学生の成長実感のキーワードが、AI やエクセルを含む多様なキーワードと結びついていることが看取できた。

以上の結果、本委員会では、大学全体として本プログラムにおける授業内容・学生指導・学修成果について、その有効性を確認することができた、との結論に至った。

最後に、設問13では、本プログラムにおける課題を抽出することを企図して、「Si データサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。」を設定した。本設問は、任意項目であったものの、149名の有効回答数を得ることができた。

学生からフィードバックされた回答については、テキストマイニングを活用してキーワードを抽出することとした。その結果、「実践」「深まる」といったキーワードが抽出されたことから、本プログラムを通じて学びを深め、より実践的な知見を持ちたいという意欲がうかがえた。

さらに、共起ネットワークを分析した結果、「内容」「学ぶ」「知識」「理解」「考える」などが密接に結びついていることから授業理解を深めるための分かりやすい教材や学生のレベルに合わせた説明が重要だと確認できた。

《対象科目別集計の結果》

対象科目別集計では、「情報入門1、情報基礎I」、「情報処理入門」、「ネットワーク情報総論1」および「日本語情報処理1」の4つのグループの対象科目ごとに、設問1～11の集計を行った。

まず、最も履修者数が多い「情報入門1、情報基礎I」においては、設問11を除き、全ての設問において、肯定回答率が70%を上回る結果となった。

続いて、経営学部で履修する「情報処理入門」においては、設問3を除き、全ての設問において肯定回答率が70%を上回る結果となった。

続いて、ネットワーク情報学部で履修する「ネットワーク情報総論1」においては、設問10を除き、全ての設問において、肯定回答率が70%を上回る結果となった。

最後に、国際コミュニケーション学部日本語学科で履修する「日本語情報処理1」においては、設問3、設問10および設問11以外の設問において、肯定回答率が80%を超えており、全学部の肯定回答率と比べても満足度が非常に高い結果となった。

(2) Si データサイエンス教育プログラムに関わる授業科目の教育内容・方法の把握と改善支援について

令和7年度も引き続き、「基礎リテラシーレベル」の修了要件科目の履修者を対象にアンケートを実施し、学生の要望や意見を収集の上、分析を行った。分析結果を「専修大学数理・データサイエンス・AI教育運営委員会」へ共有し、課題について検討を行っていく。並行して、令和8年度に行われるカリキュラム改正に向けて、教育内容や履修率向上を目指す取り組みの推進を行う。

(3) Si データサイエンス教育プログラムの履修状況の把握と改善について

令和7年度の「情報入門1」（選択科目）は、履修対象者数2,781名（令和6年度2,805名）に対して、最終的な履修者数は1,843名（履修率66.3%）（令和6年度1,974名、70.4%）となった。履修希望者は2,171名（令和6年度2,265名）であったため、履修希望者の履修率は84.9%（令和6年度87.2%）となった。令和8年度からカリキュラム改正により、「情報入門1」（選択科目）を「データサイエンス入門」（必修履修科目）とし、展開数増と授業指定を行うことで、全員が履修できるように準備を進めている。

また令和5年度から継続して、当該プログラムの履修率向上を目的に、当該年度入学者に対しては、プログラム専用のホームページや、学修ガイドブックでのプログラム紹介、4月のオリエンテーションガイダンスでのリーフレットの配布を通して、プログラムの

紹介を行っている。

【学外からの視点】

(1) 産業界からの視点を含めた「基礎リテラシーレベル」の教育内容・方法について

アンケート調査からは、全体的に肯定回答率が低い印象を受けるとともに、改善の余地があると感じました。特に、生成 AI に関連する内容が少なく、弱い印象を受けました。生成 AI が身近な存在となった現在、学生にとっても興味を持ちやすいテーマだと思います。日常的に取り組みやすい内容を取り入れることで、情報の精査の必要性を学ぶ機会となり、授業にいっそう能動的に取り組めるのではないのでしょうか。

しかし一方で、生成 AI には、多くの「畏」もあります。経験や知識が十分でない学生でも、生成 AI を活用すればある程度の答えを導くことができます。その反面、「考える力」が十分に備わっていない場合、生成 AI に依存しすぎてしまい、生成 AI が利用できない場面や不測の事態に直面した際に、適切に対処できなくなる可能性があります。その点を理解したうえで、適切に活用する必要があると考えます。

これらの注意点を踏まえつつ、生成 AI 関連の内容をさらに充実させることで、学生の興味・関心をより一層引き出すことができると思います。

株式会社日刊スポーツ新聞東京本社

システムソリューション本部 システム部長 山口 晃 氏

昨年度に続き外部評価者を拝命しましたが、昨年度と比べると学修内容や学生アンケートの設問のアップデート、肯定回答率の向上が見受けられ、着実にレベルアップしている印象を受けました。一方で、設問3『「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。』の肯定回答率の低さは、社会経験の乏しい学生にとって「社会」をイメージし難い可能性が考えられ、改善が求められます。そのような中でも、理解に努める姿勢が垣間見える点は高く評価したいと思います。

データ駆動社会では、倫理的・法的・社会的に「やってよいこと・いけないこと」の判断が求められます。ぜひ大学在学中にしっかりと学び、身につけてほしい内容です。今後にもさらに意識付けを図りながら、一段のレベルアップを目指して取り組んでいただければと思います。

キヤノン IT ソリューションズ株式会社

R&D本部 本部長 今井 太一 氏

4 添付資料

- ① 令和7年度学生アンケート分析結果報告書【Si データサイエンス教育プログラム
(基礎リテラシーレベル)】

以 上

令和7年度学生アンケート 分析結果報告書

【Siデータサイエンス教育プログラム(基礎リテラシーレベル)】

専修大学 数理・データサイエンス・AI教育
自己点検・評価実施委員会

1. 調査概要と回答結果

調査概要①

- 実施目的：「Siデータサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）」における教育の質向上を図るため
- アンケート対象者：「Siデータサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）」対象科目の履修者
- 実施期間：令和7年7月14日（月）～8月2日（土）
- 調査方法：本学で導入しているLMS（in Campus）によるアンケート調査
- 設問数：全13問（うち、単一選択形式（ラジオボタン）11問、記述式2問）

調査概要②

OSiデータサイエンス教育プログラム（基礎リテラシーレベル）の対象科目

経済学部・・・情報入門Ⅰ

法学部・・・情報入門Ⅰ

経営学部・・・情報処理入門

商学部・・・情報基礎Ⅰ

文学部・・・情報入門Ⅰ

ネットワーク情報学部・・・ネットワーク情報総論Ⅰ

人間科学部・・・情報入門Ⅰ

国際コミュニケーション学部日本語学科・・・日本語情報処理Ⅰ

国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科・・・情報入門Ⅰ

回答結果

学 部	対象者数	回答数	回答率
経済学部	634	155	24.4%
法 学 部	480	68	14.2%
経営学部	595	95	16.0%
商 学 部	692	155	22.4%
文学部	364	84	23.1%
ネットワーク情報学部	265	189	71.3%
人間科学部	226	56	24.8%
国際コミュニケーション学部 日本語学科	69	62	89.9%
国際コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科	99	16	16.1%
合 計	3,424	880	25.7%

2. 全学部集計

全学部集計 設問1～11【単一選択形式】

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。
7	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、個人情報保護などのデータを取り巻く環境について関心を持つようになった。
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	28.8%	35.7%	25.0%	35.1%	35.7%	39.4%	30.3%	36.3%	54.1%	29.7%	29.8%
やや当てはまる	49.9%	45.0%	44.4%	49.1%	47.2%	45.9%	46.3%	50.1%	34.8%	40.7%	40.7%
肯定回答率	78.6%	80.7%	69.4%	84.2%	82.8%	85.3%	76.6%	86.4%	88.9%	70.3%	70.5%
どちらともいえない	16.8%	14.5%	21.5%	11.0%	13.4%	11.6%	18.0%	11.4%	8.8%	23.9%	20.1%
やや当てはまらない	2.4%	3.1%	5.9%	3.4%	2.5%	1.7%	3.8%	1.3%	1.7%	3.6%	6.7%
当てはまらない	2.2%	1.7%	3.2%	1.4%	1.3%	1.4%	1.7%	1.0%	0.7%	2.2%	2.7%

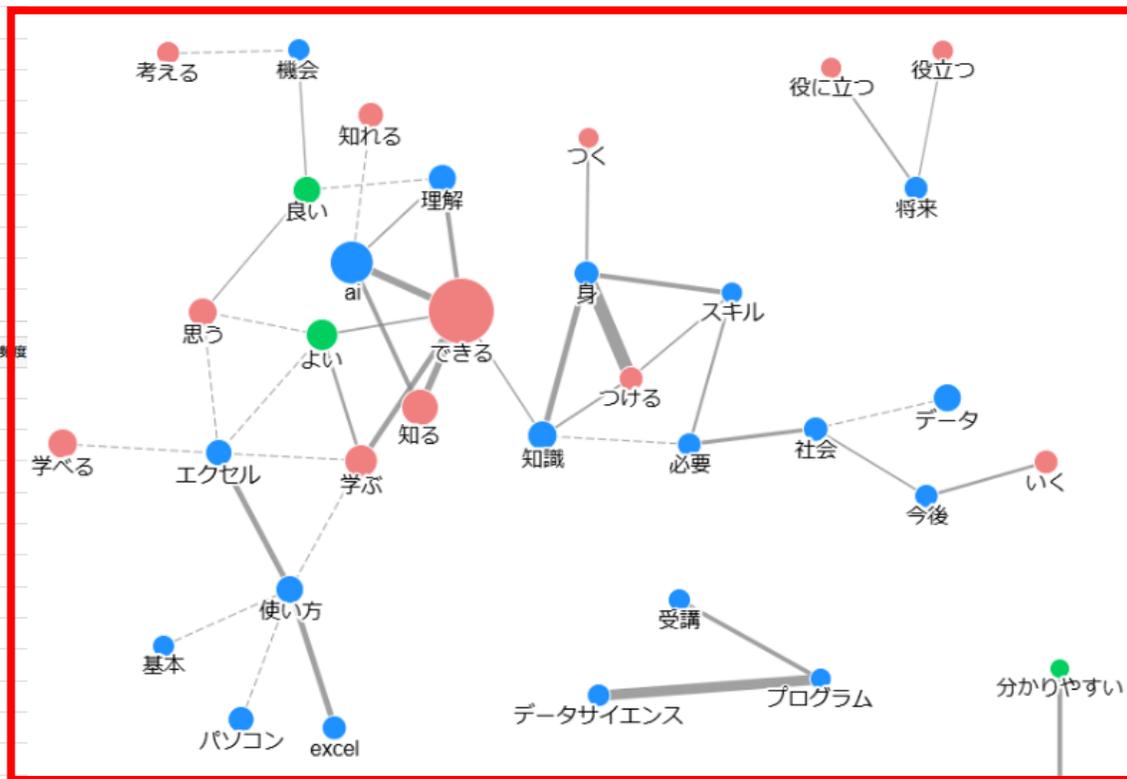
全ての設問において、肯定回答率60%を超えている。昨年同様、設問7は肯定回答率が低く、設問9は肯定回答率が高いという結果になった。

設問12【記述式】

SIデータサイエンス教育プログラムを受講して良かったと思う点を記入してください。

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度
ai	1146.80	179	できる	90.18	281
知識	135.75	77	知る	25.81	105
理解	55.90	68	学ぶ	165.22	81
データ	87.26	67	学べる	278.80	63
使い方	121.44	65	思う	1.90	58
エクセル	224.78	56	使う	6.33	53
パソコン	50.58	51	知れる	42.97	39
情報	24.18	49	つける	3.32	29
活用	107.40	45	いく	1.62	29
身	37.47	43	考える	1.62	24
社会	48.55	40	わかる	1.11	24
excel	246.94	38	出来る	1.27	22
将来	44.21	35	扱う	19.61	19
必要	9.60	34	役立つ	26.41	15
今後	17.20	31	感じる	1.06	14

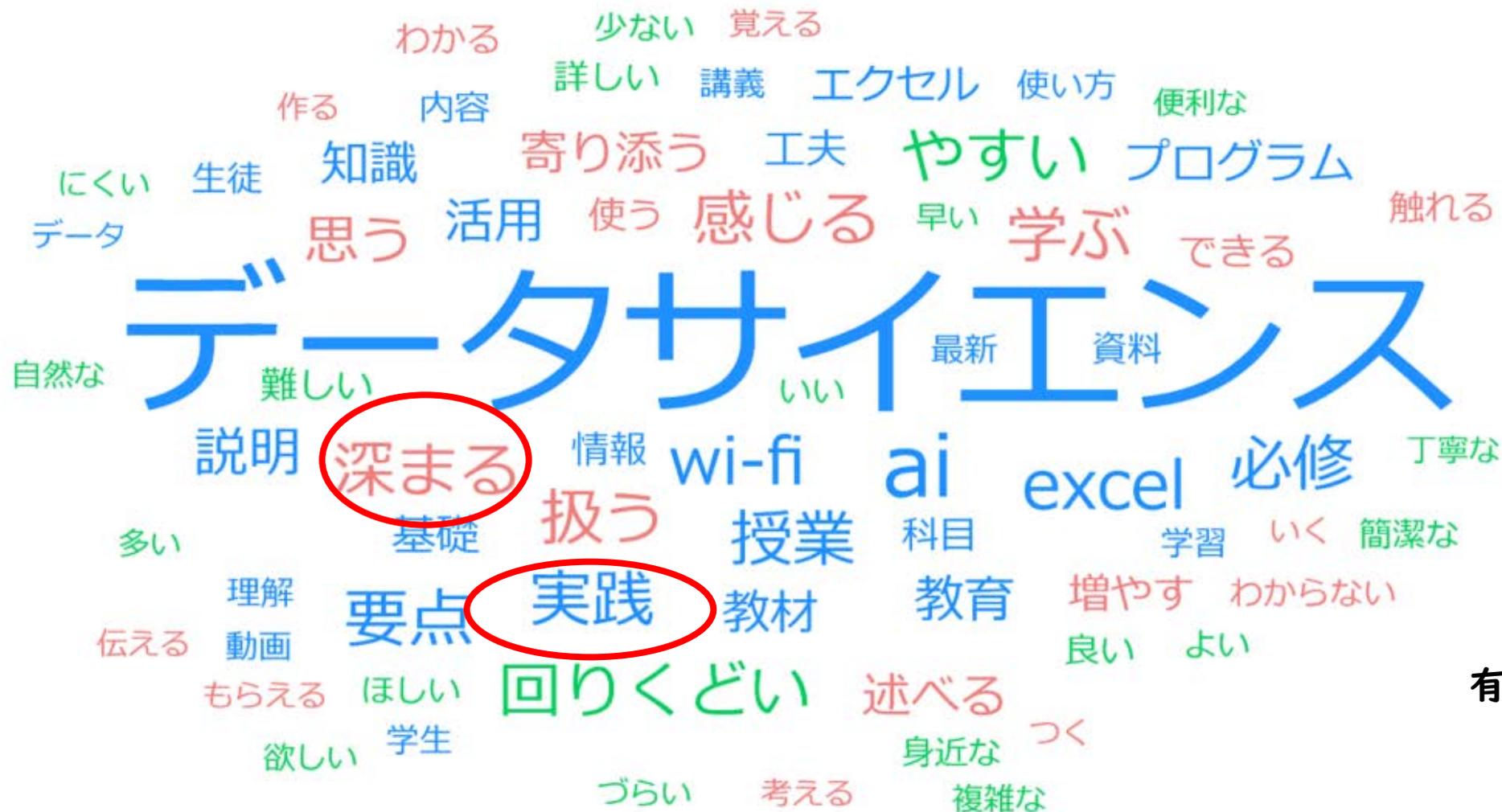
■ 形容詞	スコア	出現頻度	■ 感動詞	スコア	出現頻度
よい	11.01	74	---	---	---
良い	3.60	52	---	---	---
詳しい	10.26	23	---	---	---
深い	3.98	14	---	---	---
多い	0.42	12	---	---	---
いい	0.04	7	---	---	---
わかりやすい	2.33	6	---	---	---
新しい	0.30	6	---	---	---
しやすい	1.55	5	---	---	---
正しい	1.10	5	---	---	---
細かい	0.79	4	---	---	---
分かりやすい	0.99	3	---	---	---
ありがたい	0.17	3	---	---	---
少ない	0.11	3	---	---	---
難しい	0.07	3	---	---	---



共起ネットワークにおいて、「できる」「知る」「学べる」といった学生の成長実感が、AIやデータを含む多様なキーワードと結びついていることが看取できる。

設問13【記述式】

Siデータサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。



有効回答数
149名

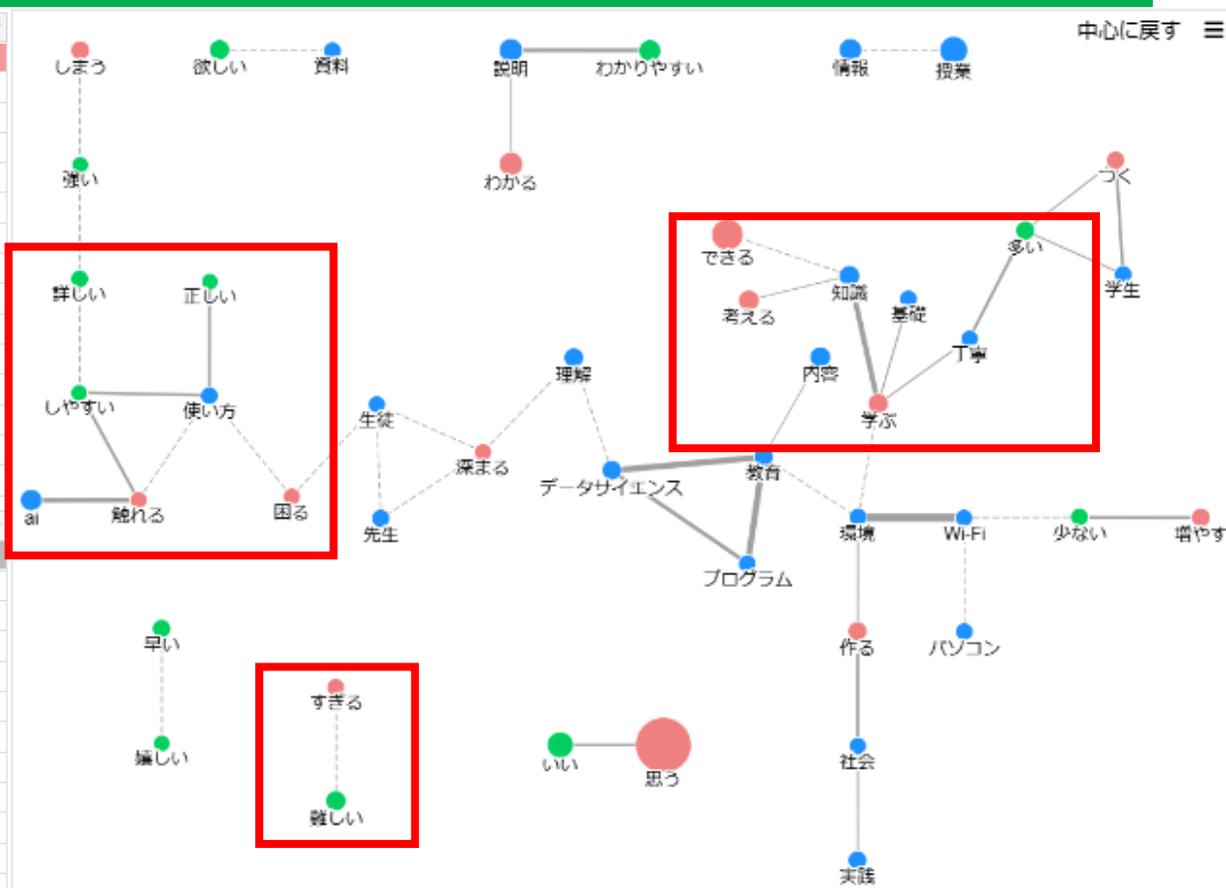
「実践」「深まる」などのキーワードが抽出され、より実践的な知見を持ちたいという意欲がうかがえた。

設問13【記述式】

Siデータサイエンス教育プログラムをより良くするために工夫できることがあれば記入してください。

■ 名詞	スコア	出現頻度	■ 動詞	スコア	出現頻度
授業	13.69	26	思う	2.53	67
説明	6.84	17	できる	0.92	27
情報	2.55	15	感じる	2.13	20
ai	36.73	13	使う	0.52	15
動画	1.10	13	わかる	0.38	14
知識	4.67	11	考える	0.23	9
内容	1.83	11	学ぶ	3.09	8
データサイエンス	48.22	9	いく	0.12	8
理解	1.26	9	増やす	1.06	6
教育	5.29	8	作る	0.11	6
実践	7.59	7	しまう	0.06	6
活用	5.11	7	くれる	0.04	6
先生	0.27	6	扱う	1.75	5
プログラム	3.80	5	つく	0.14	5
基礎	3.52	5	知る	0.04	4

■ 形容詞	スコア	出現頻度	■ 感動詞	スコア	出現頻度
ほしい	1.12	19	すみません	0.01	1
いい	0.25	18	---	---	---
良い	0.35	16	---	---	---
わかりやすい	7.12	11	---	---	---
よい	0.25	11	---	---	---
難しい	0.51	8	---	---	---
欲しい	0.14	8	---	---	---
多い	0.11	6	---	---	---
早い	0.07	5	---	---	---
詳しい	0.35	4	---	---	---
少ない	0.19	4	---	---	---
分かりやすい	0.46	2	---	---	---
しやすい	0.26	2	---	---	---
正しい	0.18	2	---	---	---
強い	0.02	2	---	---	---



共起ネットワークにおいて、「内容」「学ぶ」「知識」「理解」「考える」などが密接に結びついていることから授業理解を深めるための教材や学生のレベルに合わせた説明が重要だと分かった。

3. 対象科目別集計

「情報入門Ⅰ・情報基礎Ⅰ」、「情報処理入門」、「ネットワーク情報総論Ⅰ」および「日本語情報処理Ⅰ」の4つのグループの対象科目ごとに、設問Ⅰ～Ⅱの集計を行い、全学部集計との比較を行う。

【情報入門Ⅰ、情報基礎Ⅰ】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。
7	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、個人情報保護などのデータを取り巻く環境について関心を持つようになった。
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に着け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	32.0%	37.3%	26.4%	39.5%	35.8%	40.1%	31.8%	36.9%	56.6%	33.5%	29.0%
やや当てはまる	48.5%	45.5%	44.2%	47.8%	47.8%	45.5%	44.8%	49.8%	34.6%	39.9%	39.5%
肯定回答率	80.5%	82.8%	70.6%	87.3%	83.5%	85.6%	76.6%	86.7%	91.2%	73.4%	68.5%
どちらともいえない	15.7%	13.7%	21.0%	9.0%	13.1%	11.8%	18.9%	11.2%	7.1%	21.7%	21.0%
やや当てはまらない	1.7%	2.3%	5.6%	2.4%	1.9%	1.5%	3.0%	1.1%	1.1%	3.2%	8.1%
当てはまらない	2.1%	1.3%	2.8%	1.3%	1.5%	1.1%	1.5%	0.9%	0.6%	1.7%	2.4%

【全学部】

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	78.6%	80.7%	69.4%	84.2%	82.8%	85.3%	76.6%	86.4%	88.9%	70.3%	70.5%

設問11を除き、肯定回答率が全て70%を超えている。特に設問4・設問6・設問8・設問9の肯定回答率が高い。

【情報処理入門】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。
7	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、個人情報保護などのデータを取り巻く環境について関心を持つようになった。
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	21.1%	25.3%	16.8%	19.0%	22.1%	27.4%	24.2%	25.3%	54.7%	30.5%	30.5%
やや当てはまる	46.3%	43.2%	41.1%	47.4%	46.3%	47.4%	43.2%	48.4%	24.2%	41.1%	39.0%
肯定回答率	67.4%	68.4%	57.9%	66.3%	68.4%	74.7%	67.3%	73.7%	79.0%	71.6%	69.5%
どちらともいえない	24.2%	21.1%	29.5%	21.1%	22.1%	17.9%	20.0%	20.0%	12.6%	20.0%	22.1%
やや当てはまらない	3.2%	6.3%	3.2%	8.4%	7.4%	3.2%	7.4%	4.2%	6.3%	4.2%	3.2%
当てはまらない	5.3%	4.2%	9.5%	4.2%	2.1%	4.2%	5.3%	2.1%	2.1%	4.2%	5.3%

【全学部】

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	78.6%	80.7%	69.4%	84.2%	82.8%	85.3%	76.6%	86.4%	88.9%	70.3%	70.5%

設問3を除き、全ての設問で肯定回答率が60%を超えている。

【ネットワーク情報総論Ⅰ】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。
7	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、個人情報保護などのデータを取り巻く環境について関心を持つようになった。
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に着け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	24.9%	34.9%	26.5%	29.1%	40.7%	43.9%	29.6%	39.2%	49.7%	21.7%	31.7%
やや当てはまる	53.4%	45.0%	47.6%	52.4%	43.4%	45.0%	50.3%	51.3%	38.6%	41.8%	45.0%
肯定回答率	78.3%	79.9%	74.1%	81.5%	84.1%	88.9%	79.9%	90.5%	88.4%	63.5%	76.7%
どちらともいえない	18.5%	15.9%	20.1%	14.3%	13.2%	9.5%	15.9%	8.5%	11.1%	30.2%	17.5%
やや当てはまらない	3.2%	3.7%	5.3%	4.2%	2.6%	1.1%	3.7%	0.5%	0.5%	4.2%	4.8%
当てはまらない	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	0.5%	0.5%	0.0%	2.1%	1.1%

【全学部】

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	78.6%	80.7%	69.4%	84.2%	82.8%	85.3%	76.6%	86.4%	88.9%	70.3%	70.5%

設問10を除き、肯定回答率が全て70%を超えている。

【日本語情報処理Ⅰ】集計

設問	設問内容
1	【意 欲】 Siデータサイエンス教育プログラムに意欲的に参加することができた。
2	【理 解 度】 データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解できた。
3	【理 解 度】 「数理・データサイエンス・AI」が、今後の社会における「読み・書き・そろばん」に相当することを理解できた。
4	【理 解 度】 今のAIで出来ることと、出来ないことを理解できた。
5	【理 解 度】 AIを活用した新しいビジネスやサービスは複数の技術が組み合わせられて実現していることを理解できた。
6	【成長実感】 データリテラシーを向上できた。
7	【理 解 度】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講することで、個人情報保護などのデータを取り巻く環境について関心を持つようになった。
8	【理 解 度】 データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会におけるリスク、個人のデータを守るために留意すべき事項を理解できた。
9	【成長実感】 Siデータサイエンス教育プログラムを受講して、将来、役立つと思った。
10	【推 奨 度】 このSiデータサイエンス教育プログラムを、後輩や友人などのほかの学生に勧めたい。
11	【希 望】 今後、人工知能やさらに高度なデータサイエンスの実践力を身に付け、応用基礎レベルの認定を目指したい。

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
当てはまる	24.6%	41.0%	21.3%	41.0%	41.0%	39.3%	29.5%	39.3%	45.9%	19.7%	29.5%
やや当てはまる	55.7%	42.6%	42.6%	52.5%	54.1%	49.2%	50.8%	50.8%	39.3%	44.3%	41.0%
肯定回答率	80.3%	83.6%	63.9%	93.4%	95.1%	88.5%	80.3%	90.2%	85.2%	63.9%	70.5%
どちらともいえない	9.8%	8.2%	18.0%	3.3%	3.3%	6.6%	13.1%	8.2%	9.8%	27.9%	16.4%
やや当てはまらない	4.9%	3.3%	13.1%	1.6%	0.0%	3.3%	4.9%	0.0%	3.3%	4.9%	6.6%
当てはまらない	4.9%	4.9%	4.9%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	3.3%	6.6%

【全学部】

選択肢/設問	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11
肯定回答率	78.6%	80.7%	69.4%	84.2%	82.8%	85.3%	76.6%	86.4%	88.9%	70.3%	70.5%

設問3及び設問10、設問11を除き、肯定回答率が全て70%を超えている。



 **SENSHU UNIVERSITY**

 社会知性の開発をめざす
専修大学



社会知性の開発をめざす
専修大学